

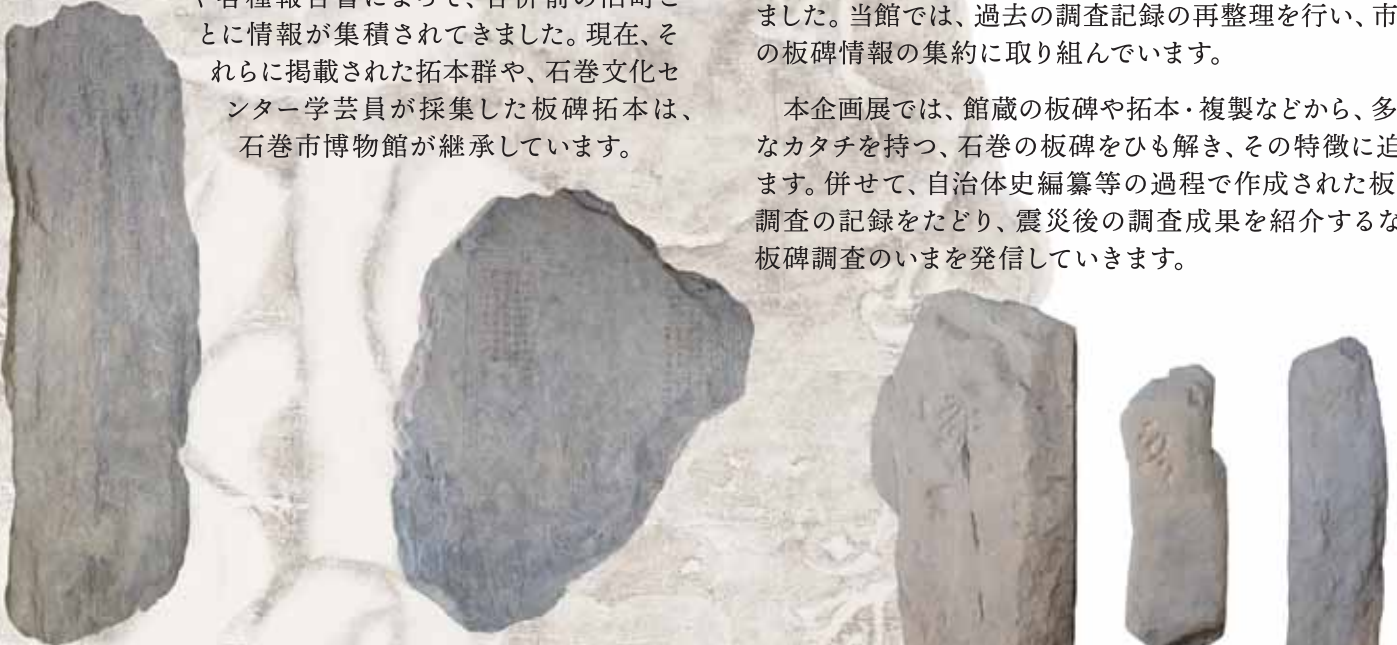
長年積み重ねられてきた石巻の板碑調査

板碑とは、鎌倉時代から戦国時代にかけて立てられた石製の供養塔です。全国で約7万基確認されており、宮城県には7,000基以上が存在するといわれています。そのうち、石巻には、2,000基を超える板碑があり、宮城県最古の文応元年(1260)の銘を持つ板碑も存在します。

石巻の板碑は、『石巻の歴史』を始めとする自治体史や各種報告書によって、合併前の旧町ごとに情報が集積されてきました。現在、それらに掲載された拓本群や、石巻文化センター学芸員が採集した板碑拓本は、石巻市博物館が継承しています。

全国屈指の板碑密集地帯である石巻ですが、東日本大震災で沿岸部が被災したため、所在不明になっている板碑も少なくありません。平成30年(2018)以降、石巻市教育委員会は、東京大学史料編纂所の共同研究や、菊地大樹教授が研究代表をつとめる基盤研究A「デジタル技術による金石文史料の研究資源化と学融合的歴史叙述への応用研究」と協力し、市内の板碑再調査を進めてきました。当館では、過去の調査記録の再整理を行い、市内の板碑情報の集約に取り組んでいます。

本企画展では、館蔵の板碑や拓本・複製などから、多様なカタチを持つ、石巻の板碑をひも解き、その特徴に迫ります。併せて、自治体史編纂等の過程で作成された板碑調査の記録をたどり、震災後の調査成果を紹介するなど、板碑調査のいまを発信していきます。



高德寺蔵 文応元年銘板碑

香積寺蔵 阿弥陀三尊画像板碑

館蔵 長塩谷板碑(金泥板碑)

企画展関連イベント

2/5(日)

Workshop & Symposium

9:30—12:00 ワークショップ

「体験しよう! ひかり拓本の技術」

講師 上相英之(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 研究員)

会場 マルホンまきあーとテラス 小ホール及びホワイエ(参加無料)

13:00—16:00 シンポジウム

「板碑が語る中世の石巻—『石巻の歴史』板碑編から30年—」

第1部 報告① 「宮城県の板碑—松島町雄島海底板碑群の紹介を中心に—」

七海雅人(東北学院大学文学部 教授)

報告② 「陸奥からみた中世東国文化の広がり」

菊地大樹(東京大学史料編纂所 教授)

報告③ 「三陸南部の板碑」

田中則和(東北学院大学 東北文化研究所 客員)

第2部 パネルディスカッション「石巻から中世・東北をみる」

パネラー 七海雅人×菊地大樹×田中則和×上相英之

コーディネーター 泉田邦彦(石巻市博物館 学芸員)

会場 マルホンまきあーとテラス 小ホール

(申込不要、参加無料、定員150人)

9:30~10:15

ひかり拓本を
知ろう!

講師による技術と
事例の紹介

10:30~12:00

ひかり拓本を
体験しよう!

来場者による自由体験

※被写体(石碑など
凹凸があるもの)
の持ち込み可

主な展示資料

館蔵：長塩谷板碑、高木観音堂板碑、

鹿妻専称廃寺跡出土板碑、

旧石巻文化センター資料(板碑拓本、板碑複製)、

旧桃生郡河北地区教育委員会資料、

『石巻の歴史』掲載拓本・トレース図、

『北上川下流域のいしぶみ』掲載拓本 ほか

文応元年銘板碑(石巻市 高德寺蔵)

阿弥陀三尊画像板碑(石巻市 香積寺蔵)

雄島周辺海底採集板碑(松島町 瑞巖寺宝物館蔵)

緑泥片岩製長祿四年銘板碑(仙台市 長徳寺蔵)

背景写真：石巻市三輪田 雷神社 応永十六年銘十三仏種子板碑拓本

アクセス方法

〒986-0032

宮城県石巻市開成 1-8 (マルホンまきあーとテラス内)

■公共交通をご利用の場合

石巻駅 → マルホンまきあーとテラス

タクシー

石巻駅前タクシー乗り場から乗車で約10分

路線バス

石巻駅前3番乗り場から石巻専修大学線に乗車で13分
総合運動公園(石巻)下車徒歩約2分

■お車でお越しの場合

三陸自動車道 石巻女川 IC より約5分

駐車場無料

